

年中行事 1 (お正月)

大野城市教育委員会



初詣

民俗資料展示室です。民俗資料というのは「昔から私達人間が生きているなかで行なわれたならわしやきたりのこと、ことばやいつたえ、衣、食、住や行事などのことです。」昔と今の生活をくらべて世の中がどんなに変わってきたかを考えてみましょう。今回は一年中の行事の中で「お正月」について考えてみました。明けましておめでとうございます。皆さんのお家ではよいお正月を迎えられたことと思います。

かがみもち 鏡餅

昔は武家の家で飾り、農家は飾らない所が多かったようです。餅といえば今は米の餅と決っていますが、昔は粟(あわ)や稗(ひえ)黍(きび)の餅もありました。もともと米は穀物の代表で人々の命を保つ大切な食料であったので正月は穀神(歳神)を迎える最も大切な年中行事でした。二段重ねの飾り餅にするのは室町時代に武家屋敷で床の間に飾りようになったのが現在でも行なわれるようになったとのことで



しめなわ 注連縄

邪気(人の身に病気をおこすと信じられている悪い気)の侵入を防ぎ歳神を迎える場を清浄にするのがしめなわの役目といわれています。門口や神棚にぶらさげる“しめ飾り”はしめなわの一種で門松をたてない地方でもします。昔は水道の蛇口や物置などにも“輪じめ”をしたといわれています。最近ではゆずり葉、だいだいなどをつけ正月の飾り物の性格が出ています。

す。そのほか家では神棚、井戸、かまど等に神様への供え物をしていたようです。だから必ず床の間に飾るのが正式ともいえないようで、これは江戸時代からです。



お年玉

お年玉

もとはお金でなく雑煮に入れる餅だったのです。餅を食べれば健康や福寿豊かな稔ができると考えられ、それを家族にも分けて与える慣習が生まれました。それが14世紀頃から年賀の際の贈り物となり年上の人が年下にやるようになりました。明治の頃はいろいろな品物をやっていたようですが今ではお金をやるようになりました。

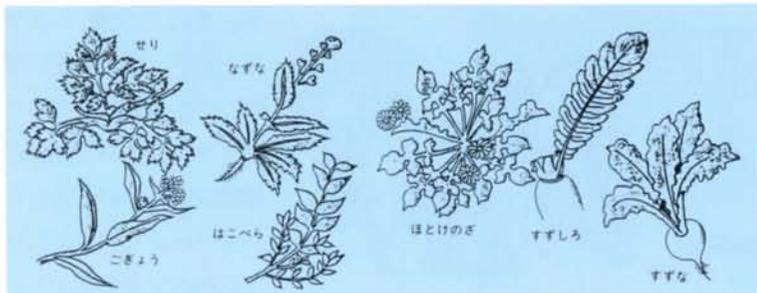
屠蘇

元日の朝「屠蘇酒」を飲む習慣は中国から伝わってきたものです。屠蘇とは「鬼気を屠絶し（ほふり去り）人魂を蘇生（よみがえらす）させるという意味です。これを飲めば一年中の邪気を払うとされ、民間が飲み出したのは江戸以降で屠蘇散（サンショウ、ニッケイなど七種の薬草）を酒にひたして年下のものから年上者へと飲むのが習わしでした。



雑煮

歳神にそなえた物をごった煮したのが雑煮の始まりということです。もともと一般の人々の間で行われたものが武家や公家の間に広まったものです。雑煮に入れるものは地方によってちがいますがどこでも入っているのは餅です。関東では切り餅、関西は丸餅が多く、その他は海産物や野菜を入れています。皆さんの家の雑煮には何がはいっていますか。



七草粥

昔公家や武家の間で行われたいろいろな祝日の中の一つです。もとは疫神などからの災いから逃れるためのまじないや祓いとした一

つだといわれています。一月七日を日本では七草の日といい中国では“人間の日”といったそうです。七日に若菜を食べる風習は平安時代から公家の間ではやったそうですがそれは無病息災長寿を願ったものだそうです。